



失われた記憶の輪郭をなぞるように
沖縄への旅が始まる

カメラになった男

写真家 中平卓馬

特別上映会＋トーク

撮る場所、生きる場所

2009年1月10日[土]

■ 特別上映会 14:15-15:46

「カメラになった男 ー写真家・中平卓馬」

小原真史監督作品 (91分)

1970年前後に、カリスマ的な写真表現の旗手として脚光を浴びた中平卓馬の現在を追うドキュメンタリー映画。

<http://www.cinekita.co.jp/lineup/camera.html>

会場：青森県立美術館シアター

定員：200名 (当日先着順) *入場無料

■ トーク 16:00-17:00

八戸市でアート活動を展開するICANOFの豊島重之氏をモデレーターに、監督の小原真史氏と、変化する場所についての強い問題意識の中で写真を撮り続けてきた北島敬三氏をパネリストに迎え、小島一郎、中平卓馬の写真と生から、北海道から沖縄まで、写真の磁場を考える。

会場：青森県立美術館シアター

モデレーター：豊島重之 (ICANOFキュレーター)

パネリスト：小原真史 (映像作家)、北島敬三 (写真家)

高橋しげみ (青森県立美術館学芸員)

※ 上映会に先立って、シンポジウムも行なわれます

■ シンポジウム 13:00-14:00

「小島一郎と北の写真」

小島一郎展で「小島一郎と北海道」をテーマに展示を企画・監修した豊島重之氏と北海道を拠点に活動する写真家・露口啓二氏を迎えて、「北海道」から小島一郎の写真を読み解く。

会場：青森県立美術館シアター

定員：200名 (当日先着順) *入場無料

パネリスト：露口啓二 (写真家・札幌市在住)

豊島重之 (ICANOFキュレーター)

モデレーター：高橋しげみ (青森県立美術館学芸員)

青森県立美術館

QONORI MUSEUM OF ART

2009年1月10日(土) - 3月8日(日)

※ 休館日：1月12日を除く第2、4月曜日

9:30-17:00 (入館は16:30まで)

【小原真史 こはら・まさし】

愛知県生まれ。早稲田大学第一文学部人文専修卒業。多摩美術大学大学院美術学部芸術学科修了。第10回重森弘淹写真評論受賞。古屋誠一展『Aus den Fugen』キュレーター。現在、写真家・古屋誠一のドキュメンタリー映画を撮影中。

【豊島重之 としま・しげゆき】

八戸市生まれ・在住。市民アートサポート ICANOFキュレーター。モレキュラーシアター演出家。1984年、青森県芸術文化奨励賞受賞。1996年、東京ジャーナル年間演劇賞受賞。編著に「パンタナル2006」「68-72*世界革命展2008」他。主な演出作品に「OHIO」(2006年シアターラム)「DECOY」(2007年沖縄県立美術館)他。主な論稿に「飛び地の写真」「写真は密航する」(photographers' gallery press 所収)他。

【北島敬三 きたじま・けいぞう】

長野県生まれ。1976年、森山大道氏らと共に自主ギャラリー「CAMP」を設立。1981年、日本写真家協会新人賞受賞。写真集『NEW YORK』刊行により、1983年、木村伊兵衛賞受賞。2007年、崩壊寸前のソ連を写したシリーズ『USSR1991』で伊奈信男賞受賞。現在は2001年に開設した自主運営ギャラリー「photographers' gallery」を拠点として、肖像写真から構成されるシリーズ『PORTRAITS』、撮影地に青森県も含まれた風景のシリーズ『PLACES』などを制作している。

【露口啓二 つぐぐち・けいじ】

徳島県生まれ。東京の大学を卒業後、札幌に移住し、写真家として活動をはじめ。主な個展に、「触物紀」(1981年、駅裏8号倉庫、札幌)、「A skin flick」(1995年、INAX ギャラリー、札幌)、「地名」(2002年、LIGHT WORKS、横浜)。2002年、「現代日本写真 / Black Out」展で日本を代表する8人の気鋭写真家の一人に選ばれ、2004年には、横浜美術館で開催された「ノンセクト・ラディカル 現代の写真 III」に出品。北海道の地名のアイヌ語的起源に着眼し、その根拠となった一つの場所を二度にわたって撮影することで『風景の亀裂』を誘発する、『地名』シリーズ、札幌中心部にかつてあった泉地と川の場所をたどる『ミズノチズ』シリーズなどを中心に制作を続けている。現在、『地名』シリーズの一環として下北半島も撮影中。